

令和5年度 第2回
蓮田市地域包括ケア推進代表者会議録

【日時】令和6年2月2日（金）
19:00～20:50
【場所】蓮田市役所 303～305会議室

【出席状況】

・委員顧問

委員	座長	一之瀬真弥	出席	委員	委員	石山信志	出席
	座長代理	岩田尚明	出席		委員	井塚亜紀	出席
	委員	井上勝徳	出席		委員	内田雅敏	欠席
	委員	本田英明	出席		委員	茅野俊幸	出席
	委員	吉川陽子	出席		委員	大塚武夫	出席
	委員	奥野とこ	欠席		委員	宮下よね子	出席
	委員	稲橋秀樹	出席	顧問	顧問	須田秀利	出席
	委員	飯塚和美	出席		顧問	外山哲也	欠席
	委員	多ヶ谷淑美	出席		顧問	小川孔美	欠席

※稲橋委員、茅野委員は、オンラインによる参加。

・事務局

山口市長

健康福祉部 森上部長

在宅医療介護課 深井課長、鈴木主幹、大熊副主幹、田中主任

福祉課長、長寿支援課長、健康増進課長

【傍聴者】 1名

- 1 開 会 深井課長 諸注意、資料確認、傍聴者の報告
あ い さ つ 山口市長
2 議 事

(1) 在宅医療・介護連携推進事業 ～あんしんセット等の活用について～

一之瀬座長により進行。

≪資料1-1～3≫に基づき、事務局より説明。

- ・「あんしんセット」の必要が見込まれるかたへの周知啓発について、蓮田市の現状を踏まえて、効果的な周知啓発へのご意見をいただきたい。

- ・質疑応答 質問なし

- ・意見交換

(委員からの意見)

- ・アレルギーや特異体質の人は、記入しておいたほうがよいと思う。また、連絡先は携帯の番号を入れてもらった方がいいのでは。
- ・(現状として) ちらしを利用者全員に配布している事業所、口頭で案内している事業所がある。セットの利用や活用も可能な限り確認しているが、案内したかた全員が活用できているかは把握できていない。
- ・積極的でないかたへの意識づくりとして、対象者以外のご家族などを巻き込むこと

も必要だと思う。地域全般への周知となると、地域の自治活動や広報で周知することが好ましいと思う。

- ・介護保険申請時に、あんしんセットを周知できるとよいのでは。
- ・ちらしを渡しても書いてくれなければ意味がない。ちらしと一緒に記入することや、ポーチに診察券をまとめることも一緒にできるとよい。
- ・自分が救急搬送された時に、こういうこと（あんしんセット）が大事だと思ったが、時間の経過とともに忘れてしまう。茅野委員が今やられている救急車で搬送されているかたに啓発するということは、とてもいいと思う。医療介護関係者などが訪問した際に、あんしんセットの準備があるかについて声掛けし、セットと一緒に準備することも今後やっていけたらと思う。
- ・ちらしは市役所で渡せるとのことだが、自治会を使って周知や宣伝してみてもいいか。

（２）認知症総合支援事業 ～認知症初期集中支援チーム検討委員会～

一之瀬座長により進行。

≪資料2≫に基づき、事務局より説明。

- ・認知症の人や家族の思いを実現するための取り組みについて、ご意見をいただきたい。
取り組み案①：個々の本人の思いを聞き取り、本人のやりたいことの実現やつどいの場の創設に発展させていく。
取り組み案②：家族の思いについては、2か月に1回開催する「家族のつどい」にて介護者が気軽に話せる場としているので、今後も継続していく。

・質疑応答 質問なし

・補足説明（稲橋委員より）

- ・当病院で認知症初期集中支援チームの事業委託を受けている。支援数が減っている原因としては、ケアマネジャーや地域包括支援センターなど、様々な医療・介護の方々が地域の中で適切に対応できていること、また色々な形で相談できる資源が地域の中で増えてきていることがあると思う。

今後認知症の方々がよりその人らしく生活してくためには、早期診断が一番大事で、併せて生活での困りごとを地域の中で拾い、サポートしていくことが必要になってくる。

そのため、病院として認知症カフェや認知症予防教室など関わる窓口を多くしてどこかで相談できるようにと思っている。その関係機関が連携していくことによって、より安心して生活できる地域になると考える。そういった連携も病院としてはつくっていききたいと思っている。

・意見交換

（委員からの意見）

- ・話し相手がいないと、認知症や様々な病気になってしまう（リスクが高い）ので、サロン、体操、行事などに参加できるような状況をつくっていくことが大事だと思う。
- ・ご本人の意向を丁寧に傾聴することが重要と感じた。
- ・通院を拒否している認知症のかたについて、家族がどのように対応したらいいか、どういう声かけをしたらいいかわからないというところで、家族の気持ちが疲れてきてしまうことがある。実際にうまくいったケースとか、具体的な関わりのパターンを提示してもらえると、参考になるのではないかと思う。
- ・自分が杖をついて歩いて行ける距離に、集まれる場があるといいと思う。また元気

でなくても行ける場、力を発揮できる場、人の役に立てる、ありがたいと言ってもらえるような場づくりが必要で認知症の施策になると思う。

- ・介護保険で自立に繋げるために、共に行うという事をしますが、時間がかかる。家族からすると、ヘルパーが食事をつくれれば1時間でできるところを、一緒にやることで一品が精一杯となり、その理解に隔たりがある。また、（ヘルパー等の）なり手がいない。そこで行政に提案だが、「地域の高齢者を支えてみませんか」という声掛けや掘り起こしを、地域でできないか。そういったことを行政と一緒にできたらと思う。
- ・本人と話している中で、おかしいと気づくことがあり、認知症の検査を提案して、受けるかたもいるが、断固拒否されるとそれ以上進めない。（認知症を）拒否する人は、診断だけでなく色々な場面で影響していくことがある。また、「本人らしく」という言葉があったが、本人が希望されないことは、押し付けるべきではないとも思っている。
- ・認知症初期集中支援チームは、対象者のハードルが高いと感じる。一般受診をしている認知症で来られた患者さんが活用できるようなシステムだといいと感じた。また、専門病院を受診するかたや家族に対して、受診日までの支援があるとご家族も安心すると思う。
- ・少し認知症を疑うかたに、薬剤師から支援チームのちらしを渡す際、「年相応だから」と言われることも多い。認知症に対して、地域が正しい知識をもつことが大事だと思う。対象者のかたに、うまく伝える方法があれば教えてほしい。
- ・認知症施策がどうあるべきかについては、本人家族だけではなく周りのかた、多世代にわたったかたの理解をすすめる取り組みをすると、地域の底上げができるのではないかなと思う。

・顧問より助言

医療と介護の溝が深い。介護現場で離職が多い問題は深刻で、介護関係者のモチベーションが低ければ、どんなにあんしんセットをつくっても、結局意味がなくなってしまう。介護関係者が希望を持ってやれるような職場になってほしいと、つくづく思う。

4月から、認知症の新しい治療が始まる。これからの認知症について重篤化を防ぐという見通しを示せたならば、認知症施策もこれから変わってくるかもしれないと期待したいと思う。

ただ認知症の臨床現場では本当に苦労なさっていると聞いているし、認知症に関わらずスタッフに関わるストレスはすごくあると思う。それを話していかないと、問題は前進しないのでは。認知症の理解を広く広めることは大事ですが、偏見のもとにならないように注意深くしないといけないと思うし、我々（医療職）は認知症発生を抑制して、重篤化を医療側が防げるようなあゆみがうまくいけばいいと思う。

（3）事業報告

一之瀬座長により進行。

- ・蓮田市配達・訪問サービス便利帳について、社会福祉協議会 井塚委員より説明。
- ・蓮田市エンディングノート（第2版）について、事務局より説明。

3 そ の 他 深井課長

- ・会議録及びホームページへの公開について
- ・委員の委嘱期間について

4 閉 会 岩田座長代理